

グルジア (Georgia)

1. 一般事情

面積	6万9,700 km ² (日本の約5分の1)
人口	430万人 (2013年: 国連人口基金)
首都	トビリシ
民族	グルジア系 (83.8%)、アゼルバイジャン系 (6.5%)、アルメニア系 (5.7%)、ロシア系 (1.5%)、オセチア系 (0.9%) (グルジア国勢調査)
言語	公用語はグルジア語 (コーカサス諸語に属する)
宗教	主としてキリスト教 (グルジア正教)

2. 政治体制・内政

政体	共和制
元首	ギオルギ・マルグヴェラシヴィリ大統領 (任期5年、2013年11月就任)
議会	一院制 (任期4年、定数150、前回選挙は2012年10月)

3. 経済

主要産業	農業、食品加工業、鉱業
国民総生産 (GDP)	158.5億ドル (2012年: IMF)
一人当たりGDP	3,229.8ドル (2011年: IMF)
経済(実質GDP)成長率	6.2% (2012年: IMF)
物価上昇率	-0.5% (2013年: IMF)
失業率	15.0% (2012年: IMF)
貿易額	・輸出: 23.77億ドル ・輸入: 78.42億ドル (2012年: グルジア国家統計庁)
主要貿易品目	・輸出: くず鉄、金属、輸送用機器、食料品 (ナッツ、ワイン、ミネラルウォーターなど) ・輸入: 燃料、石油製品、輸送用機器、医療品 (グルジア中央銀行年次レポート)
主要貿易相手国	・輸出: アゼルバイジャン、アルメニア、米国、ウクライナ、トルコ ・輸入: トルコ、アゼルバイジャン、ウクライナ、中国、ドイツ (2012年: 国家統計庁)
通貨	ラリ (Lari: 1995年9月25日導入) (CIS統計委員会)
為替レート	1ドル=1.76ラリ (2014年5月現在: グルジア国立銀行)



4. 農業

農業生産額	10億2,674万ドル (2012年)
主要農畜産物	牛乳 (24.5%)、牛肉 (9.1%)、ぶどう (8.3%)
農地面積	耕地: 40万ha、放牧地: 194万ha

(出所: FAOSTAT)

5. 日本との関係

貿易額(単位 1,000ドル)			
年	日本の輸出(A)	日本の輸入(B)	収支(A-B)
2009	55,854	7,551	48,303
2010	155,098	8,555	146,543
2011	192,871	8,732	184,139
2012	330,858	8,593	322,266
2013	372,907	5,792	367,115
主要貿易品目 (2013年)	・日本の輸出: 輸送用機器 (86.1%) ・日本の輸入: 原料別製品 (29.3%)、化学製品 (13.6%)		
在留邦人	33人 (2012年11月現在)		

(出所)

1-3: 「一般事情」「政治体制・内政」「経済」: 外務省
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/georgia/index.html>
 4: FAOSTAT

5: 「貿易額」「主要貿易品目」: ロシア NIS 調査月報 2014年6月号、「在留邦人」: 外務省

1. 農林水産業概況

(1) 地理

グルジアは、古くからヨーロッパとアジアの十字路として知られており、国土面積はおよそ 6 万 9,700 km²、ロシア、トルコ、アルメニア、アゼルバイジャンと接している。

国土の 5 割以上が山地、3 割が山麓地帯、低地は 1 割程度の比率である。地勢はおおまかに分けると中部のリヒ山脈で東西に分かれ、東部グルジアを流れるクラ川と西部グルジアを流れるリオニ川が主な河川である。クラ川はアルメニア高原から小コーカサス山脈を通りアゼルバイジャンを通過してカスピ海に注ぐ全長 1,515 km、流域面積 18 万 8,000 km²の大河である。リオニ川はコーカサス山脈のパンスムタ川に源流を発する全長 288 kmの川であり黒海に注いでいる。

東部グルジアはクラ川を中心に発展してきた。リオニ川が流れる西部グルジアは美しい湖沼地帯や山岳地帯、さらに黒海も広がるバラエティ豊かな地形で、これまでさまざまな文化を育んできた歴史を有する。²⁷



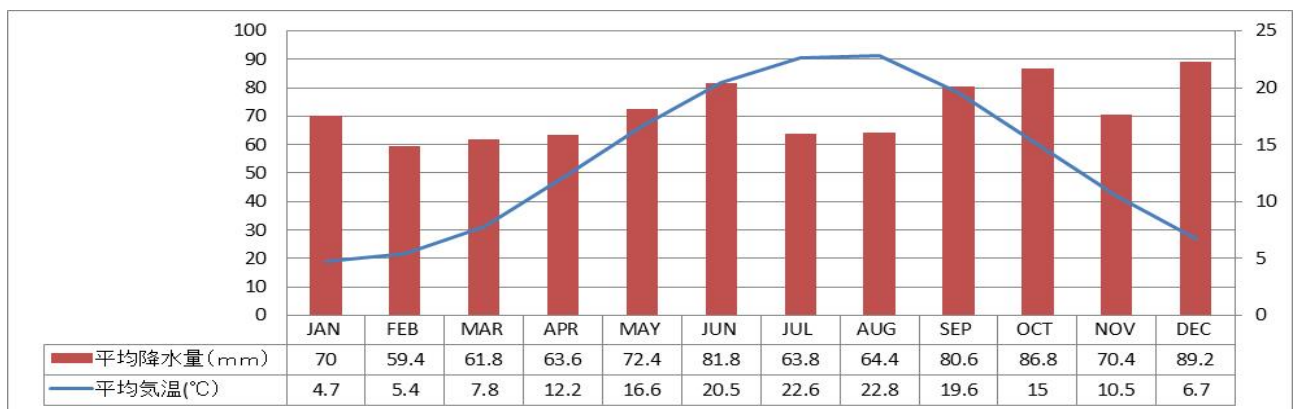
グルジアの地形図



グルジアの地域

(2) 気候

西グルジアは主に亜熱帯気候で、降水量が多く湿度が高い。東グルジアは大陸的な乾燥した気候である。7月の平均気温は 22.6℃であり、1月の平均気温は 4.7℃、平均年間降水量は 864 mmである。



出所：weatherbase (<http://www.weatherbase.com/>)

月平均気温と月平均降水量(左:mm、右:°C)²⁸

²⁷ 参考：グルジア観光情報局 HP (<http://www.dtac.jp/caucasus/georgia/data.php>)

²⁸ 気温：9都市、36年間平均。降水量：5都市、52年間平均。

(3) 農業政策の特徴

旧ソ連時代のグルジアの農業は、集団化が行われ、1985年のデータによれば、594のソフホーズと719のコルホーズが存在し、穀物、茶およびブドウの栽培が主流であった。当時は、生産性のレベルは低く、投入される労働力に見合ったものではなかった。1970年には労働者全体に占める農業従事者の割合は37%であった。1980年代になるとこの割合は下落し、85年には27.3%、1990年には25.2%であった。例えば、旧ソ連時代の生産量では、野菜の栽培が1986年に66万2,000トン、グルジア東部で行われていたブドウの栽培は同年に70万3,000トン、茶葉は55万8,800トンであった。牧畜では牛の数が160万頭、豚が120万頭、羊と山羊が190万頭であった。

ソ連の崩壊により、コルホーズ、ソフホーズは解体し、数百万人の農民が土地の所有権を獲得したが、農業はあまり効率的には行われず、小規模の土地を手にしただけであり、現物経済が主流であった。2007年の時点で私有化された耕作地は国全体の25%に過ぎなかった。

しかし社会経済危機により、経済構造が抜本的に変化し、農業人口が上昇した。1995年には農業部門の就業者は全体の22.8%であったが、2004年には兼業農家が大幅に増え、54.4%になった。ただし、専業農家の割合は22.8%と微減している。しかしその後、一貫した農業政策が行われず、農民に対し十分な貸付金の提供が行われず、機具の老朽化や、集団農場への国家援助の欠如などから、グルジアの農業は大きく衰退した。とりわけ2003年から2008年の指標では、生産性は26%減（野菜栽培24%減、畜産28%減）と大きく減産傾向を示した。現在、グルジアの農業は危機的状況にあるといえる。例えば、GDPにおける農林水産業の割合は8.3%に過ぎず、大部分の農家が採算性の低い状態にとどまっている（農場の平均規模はわずか1.22haである）。従って、食品の輸入に大きく依存しており、現在、それが輸入全体の80%を占めている。

(4) 農業セクター概況

1) 土地利用

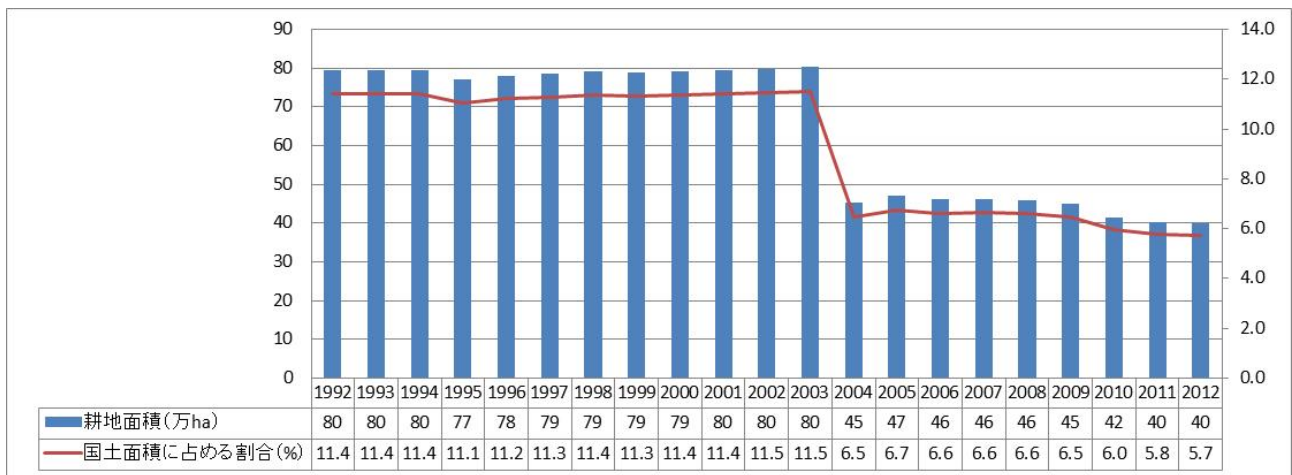
ソ連崩壊後、グルジアの農地は323万haであり国土面積の約46%を占めていたが、その後減少傾向が続き、2012年の農地面積は246.5万ha、国土面積の35%となった。耕地面積については、大幅な減少が続き、2012年の耕地面積は40万haとなり、ソ連邦崩壊後と比較すると約半分となっている。耕地面積減少の原因としては、肥料の慢性的不足が挙げられる。

グルジアと日本の土地利用状況(万ha)

国	グルジア							日本
	1992	1995	2000	2005	2010	2011	2012	2012
国土面積	697.0	697.0	697.0	697.0	697.0	697.0	697.0 (100.0%)	3,780 (100.0%)
農地	322.9	304.8	300.0	252.0	248.0	246.7	246.5 (35.4%)	455 (12.0%)
耕地面積	79.5	77.1	79.3	47.0	41.5	40.2	40.0 (5.7%)	425 (11.2%)
永年作物地	33.4	30.7	26.9	11.0	12.5	12.5	12.5 (1.8%)	30 (0.8%)
永年牧草・放牧地	210.0	197.0	193.8	194.0	194.0	194.0	194.0 (27.8%)	0 (0.0%)
森林	277.7	277.4	276.8	275.5	274.2	274.0	273.7 (39.3%)	2,500 (66.1%)
その他	94.3	112.7	118.1	167.4	172.7	174.2	174.7 (25.1%)	691 (18.3%)
陸水	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1 (0.3%)	134 (3.5%)

出所：FAOSTAT

(カッコ内は国土面積に占める割合)

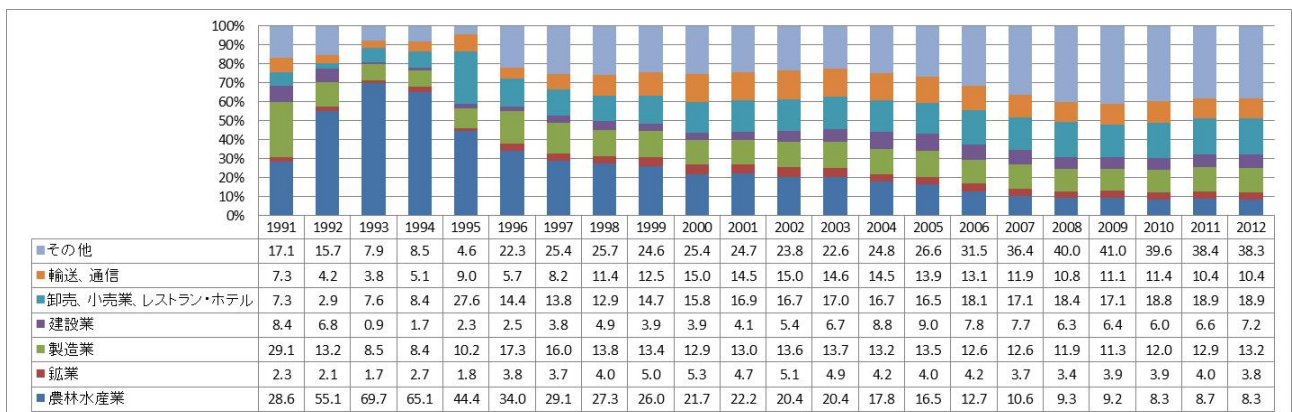


出所：FAOSTAT

耕地面積の推移(左:万ha、右:%)

2) 国内産業における農業の比重

グルジアは、ブドウや茶の栽培、ワイン、コニャックなどのアルコール製品の生産といった食品産業、絹、羊毛、紡績などの軽産業、金属、機械類の生産が活発である。ソ連崩壊後、GDP に占める農林水産業の割合は 1993 年に 69.7% とピークを迎えるが、その後減少傾向が続き 2012 年の農林水産業に占める割合はわずか 8.3% に過ぎない。



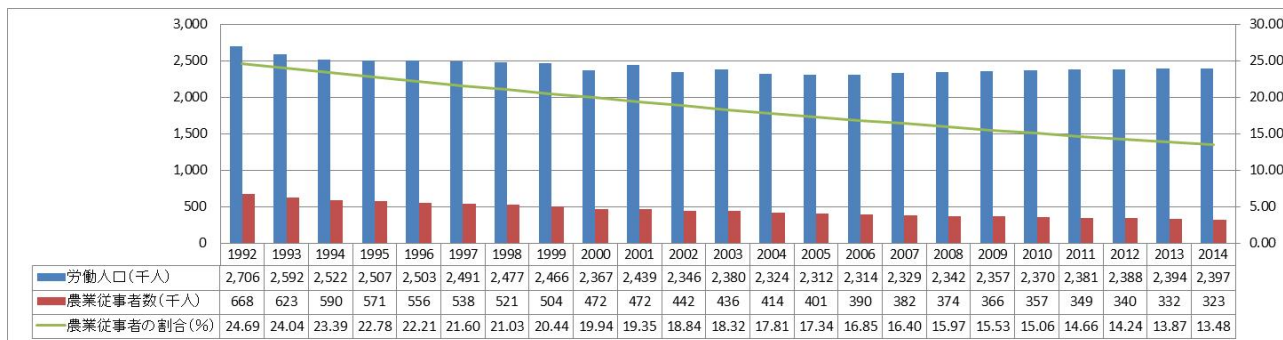
出所：国連統計

産業構造(GDP構成比)の推移(%)

3) 農業就業人口

経済危機および経済構造の変化に伴い、農業の就業者の割合が 1990 年の 25.2%から 1995 年には 30.6%、2004 年には 54.4%と著しく上昇した。

グルジア国家投資局の 2013 年のデータによると、農業には全雇用人口の 53%が従事している。しかしこれは農地の平均規模が 1.22 ha という数字が示すように、大部分が兼業農家であり、専業農家の人口そのものは下記のグラフが示すように、半減している。



出所：FAOSTAT

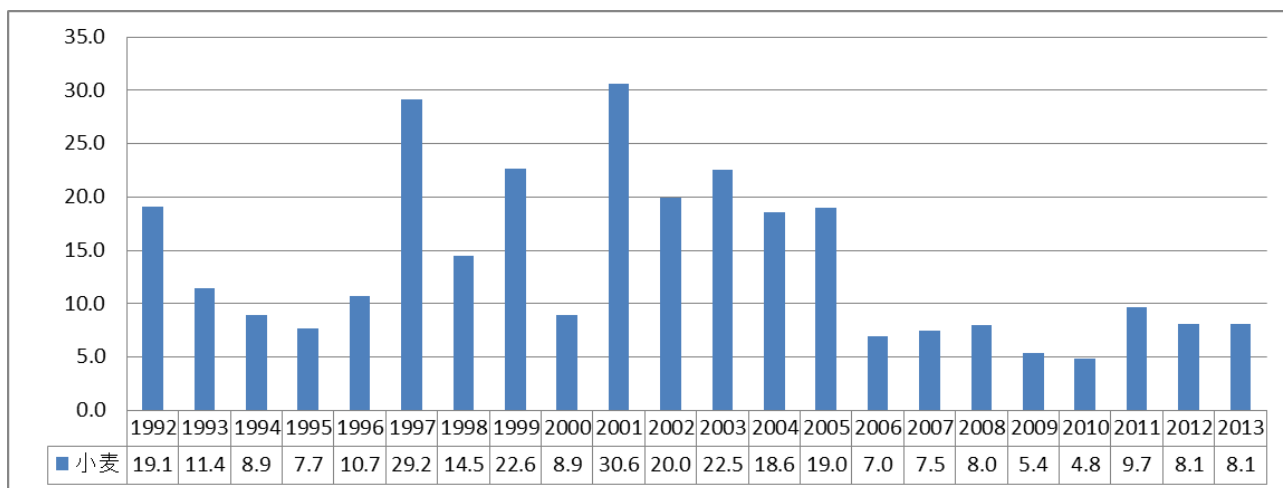
農業就業人口の推移(左:千人、右:%)

4) 農業生産の動向

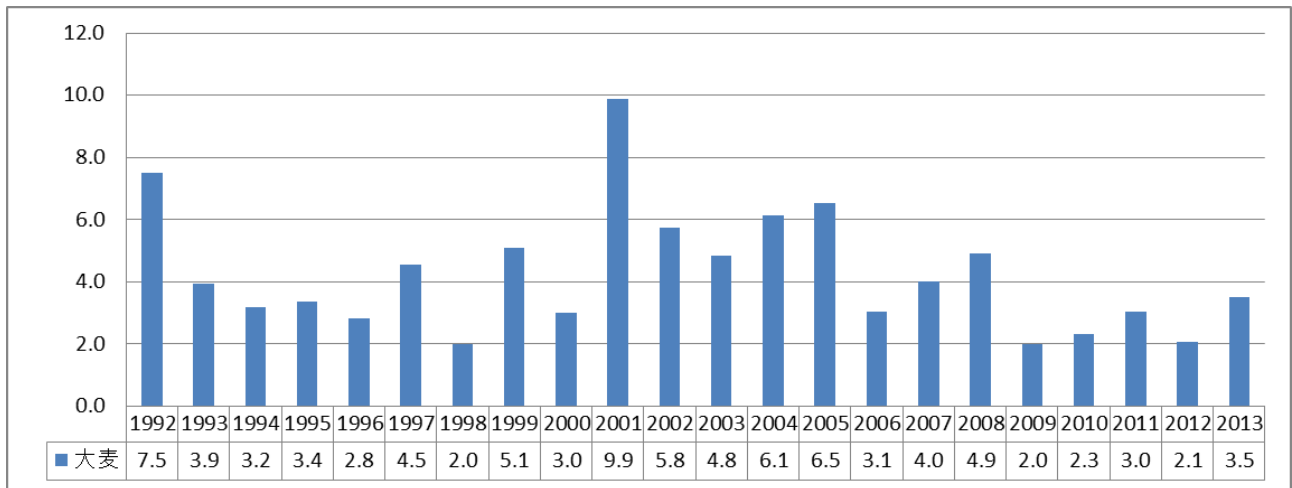
① 主要農産物の生産動向

グルジアでは、耕地面積が小規模であること、投資が不足していること、施設が老朽化していること、市場へのアクセスが悪いことなどが原因で、農作物の生産量が全体的に落ち込んでいる。

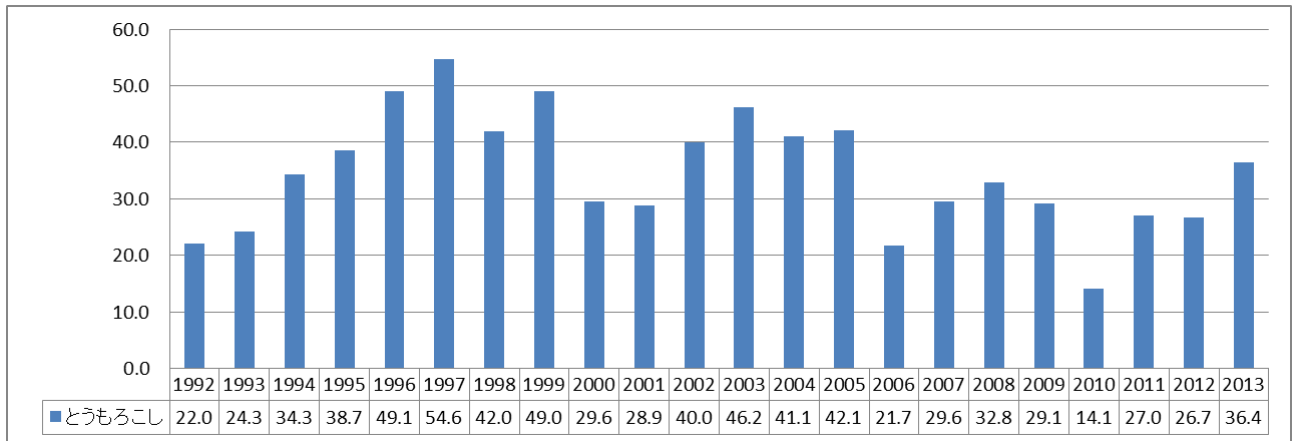
2003 年から 2008 年にかけて、農業生産量は 26%減少した。そのうち以下に挙げた穀物、野菜などの総生産量は 24%の減少である。



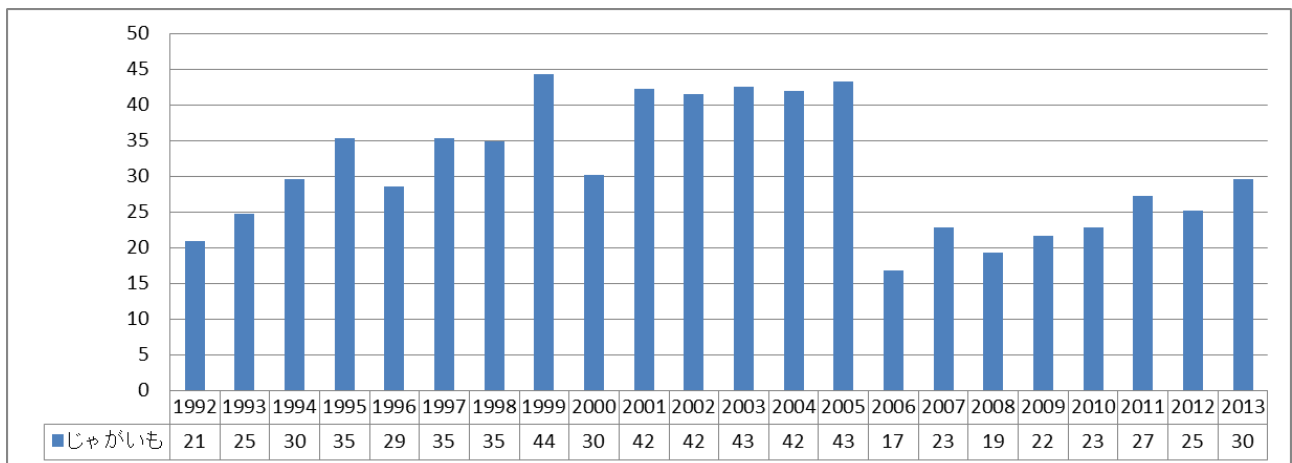
小麦の生産量の推移(万トン)



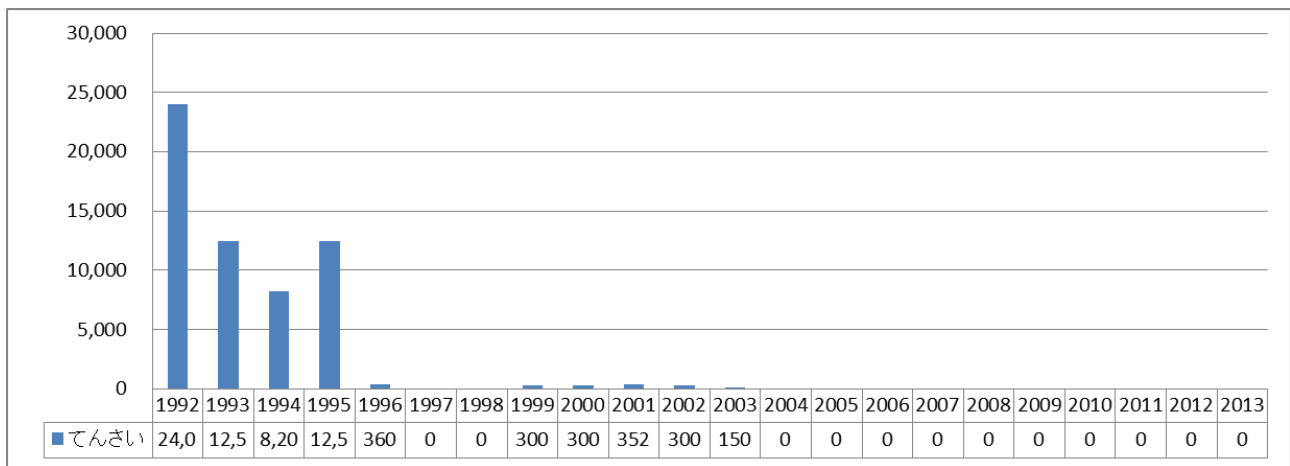
大麦の生産量の推移(万トン)



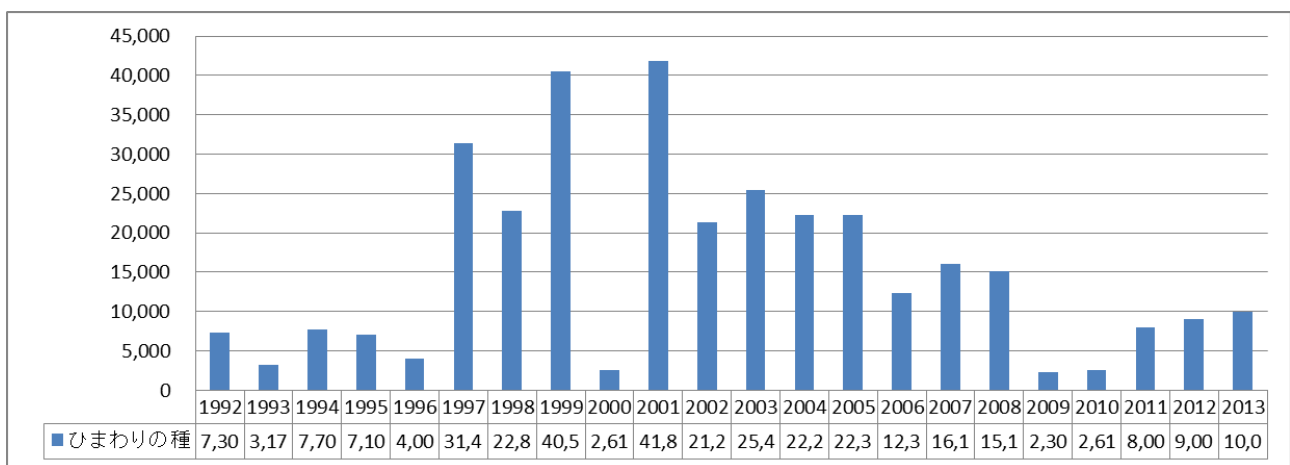
とうもろこしの生産量の推移(万トン)



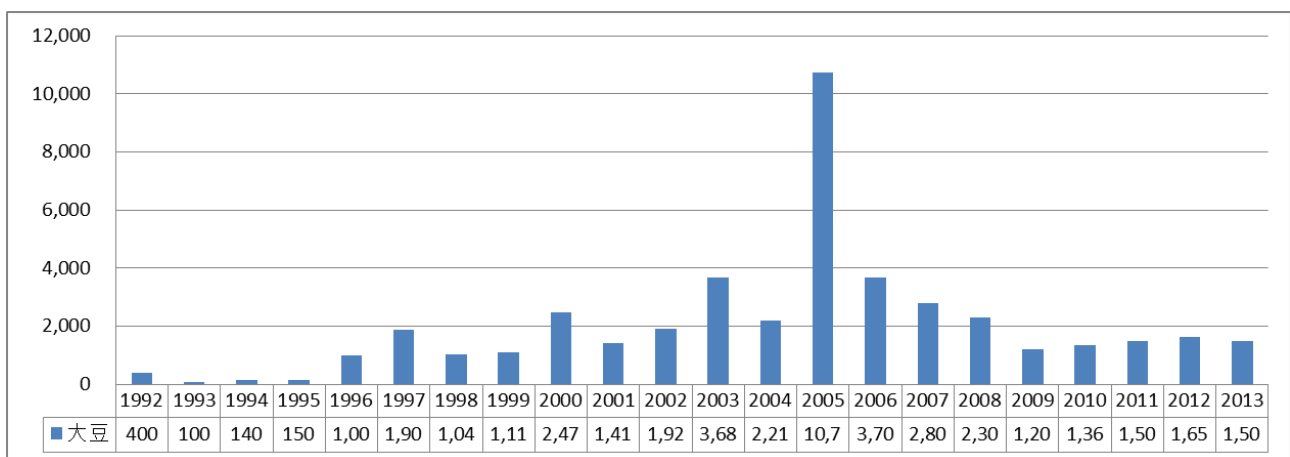
ジャガイモの生産量の推移(万トン)



テンサイの生産量の推移(万トン)



ヒマワリの種の生産量の推移(万トン)



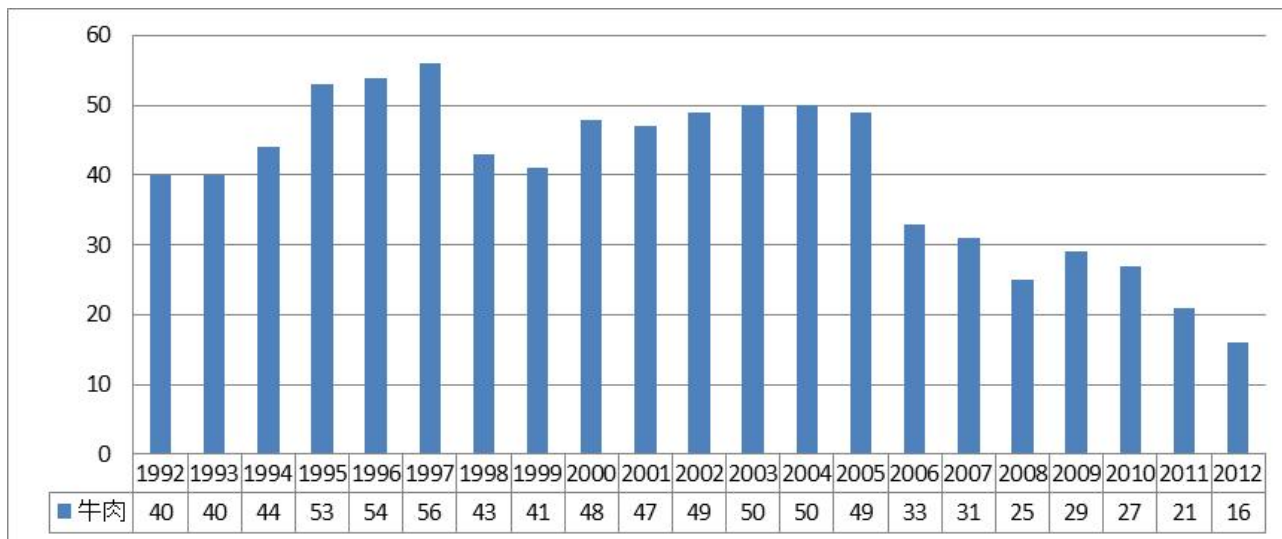
大豆の生産量の推移(万トン)

※以上7点、出所：FAOSTAT

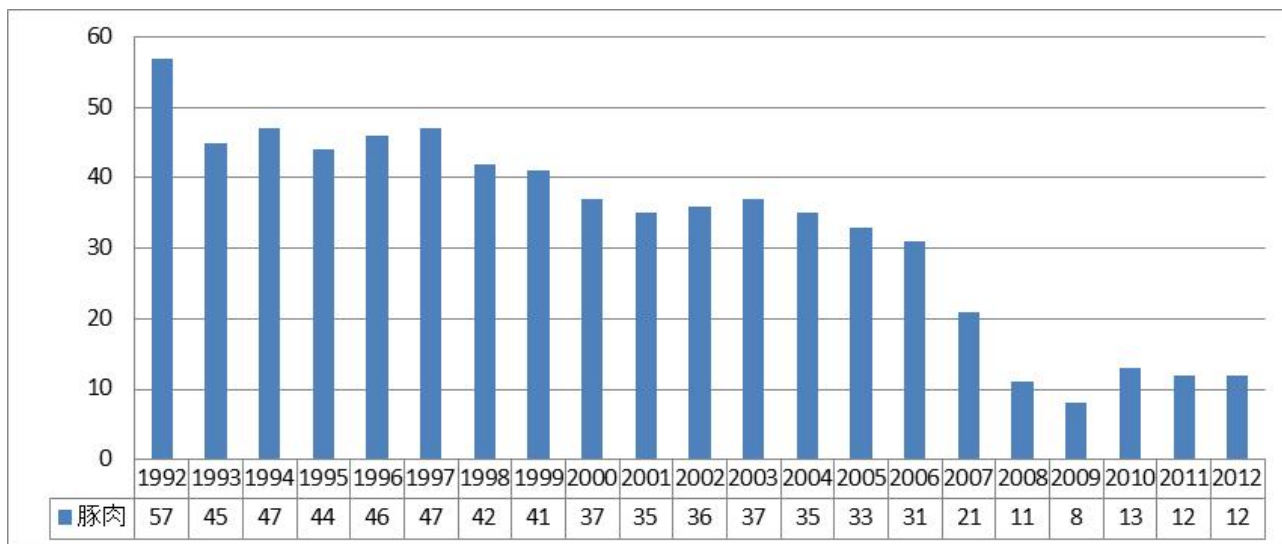
②主要畜産物の生産動向

2002年にはグルジアの畜産の生産高は10億1,000万ラリ、2003年には10億7,000万ラリ、2008年には10億3,500万ラリというように、大きな変動は示していない。

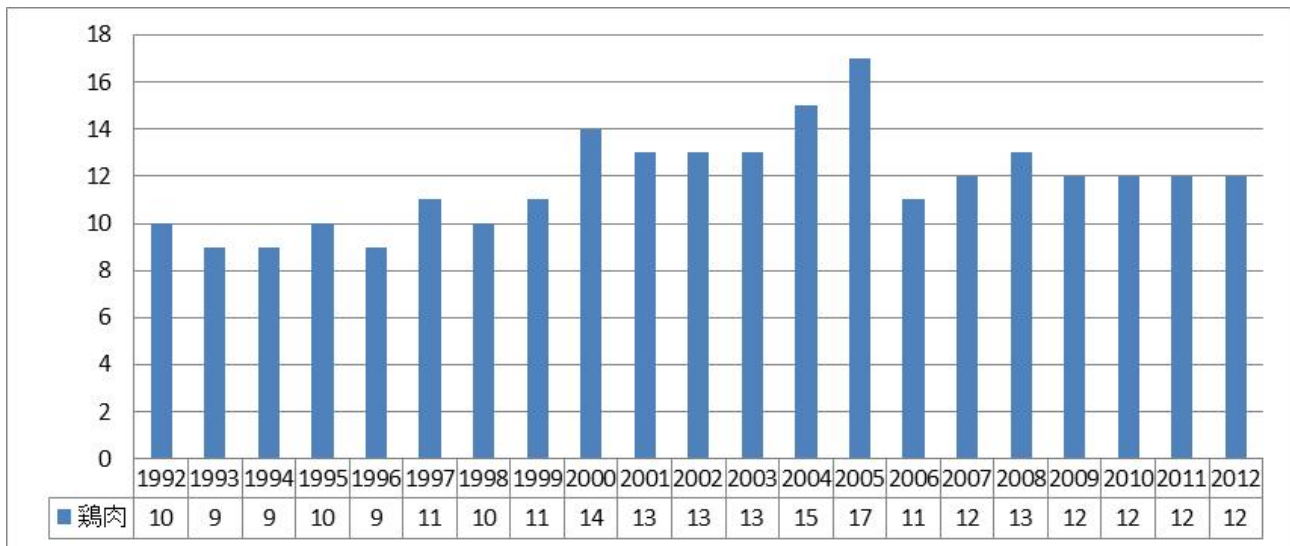
2003年から2008年には、家畜の種用品数の頭数が減少したことにより、畜産生産量も減少した。例えば、牛は23%、羊とヤギは16%、鶏は27%減少し、肉の生産量は2分の1になった。また牛乳も9%、鶏卵が4%、羊毛の生産も15%減となった。



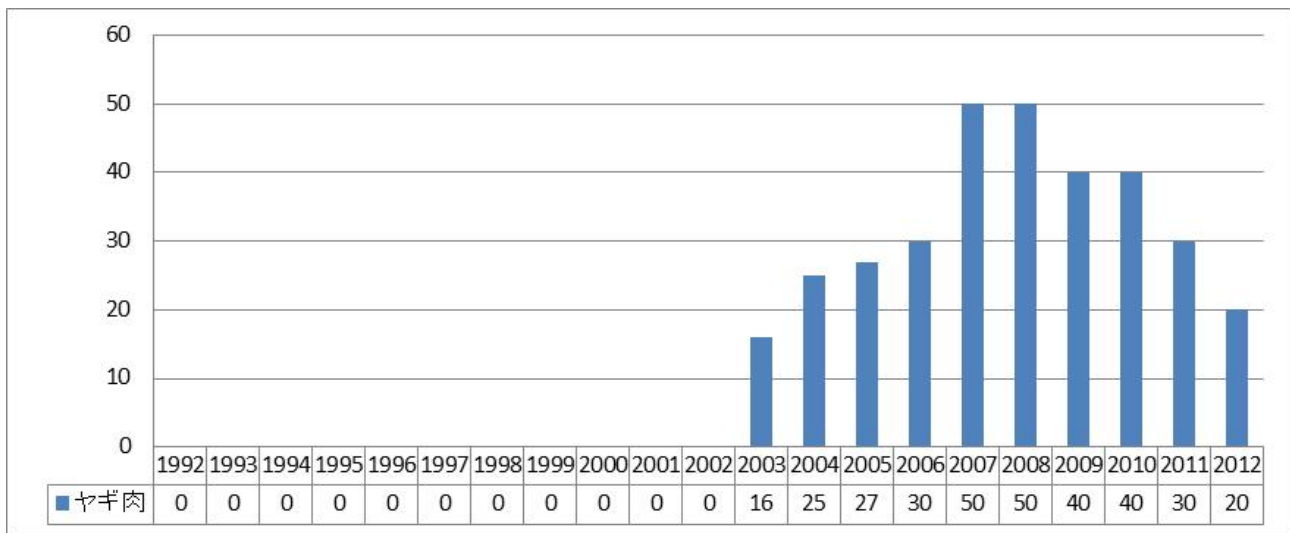
牛肉の生産量の推移(千トン)



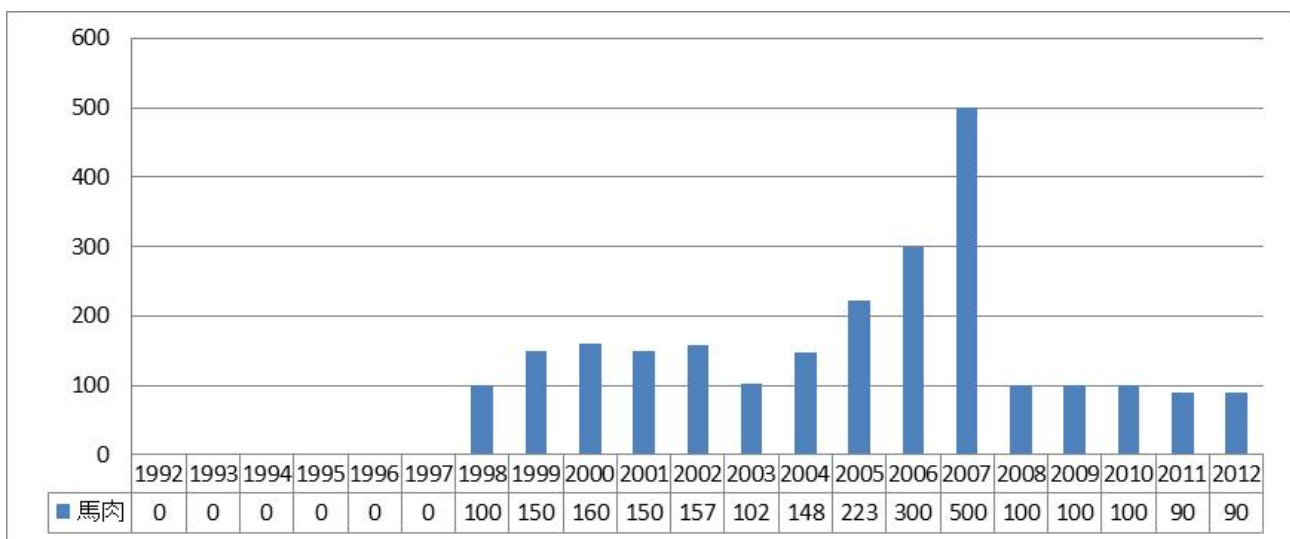
豚肉の生産量の推移(千トン)



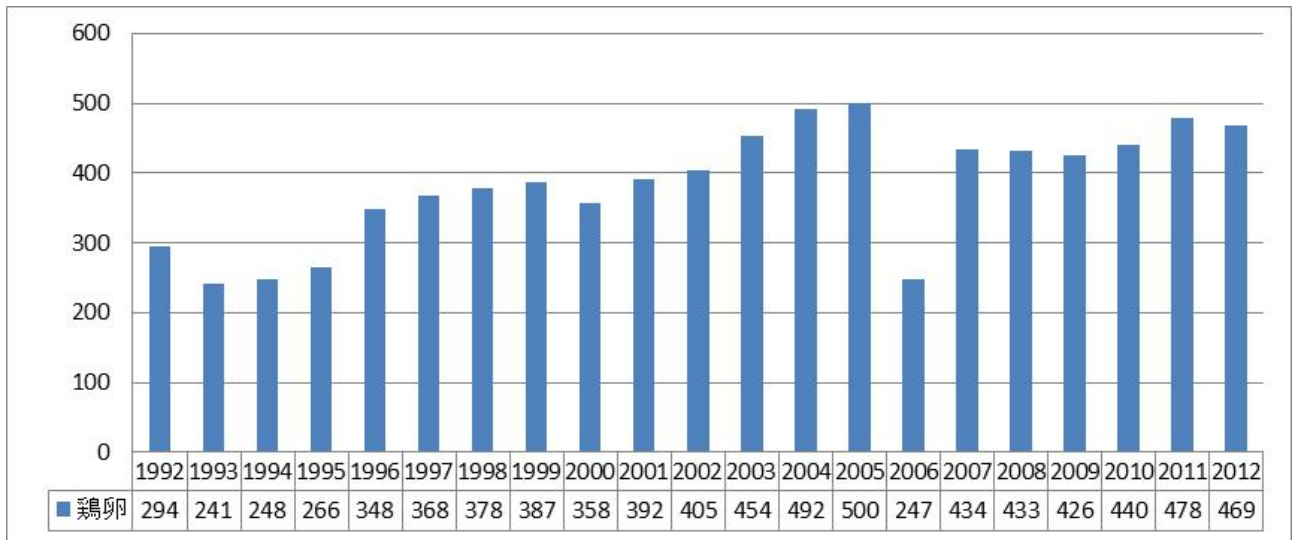
鶏肉の生産量の推移(千トン)



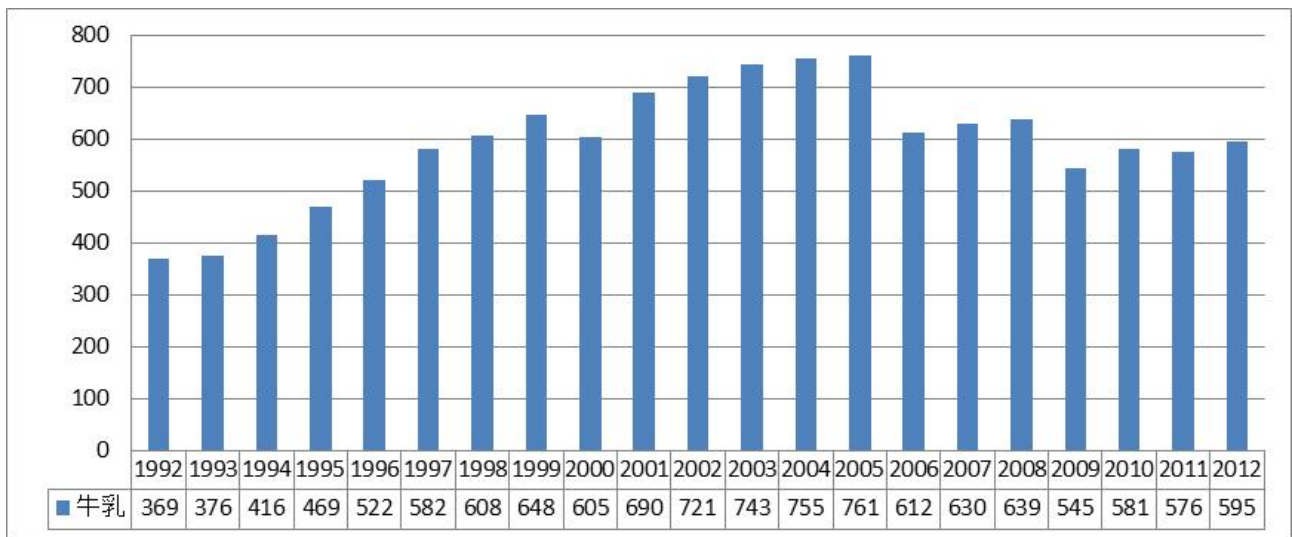
ヤギ肉の生産量の推移(トン)



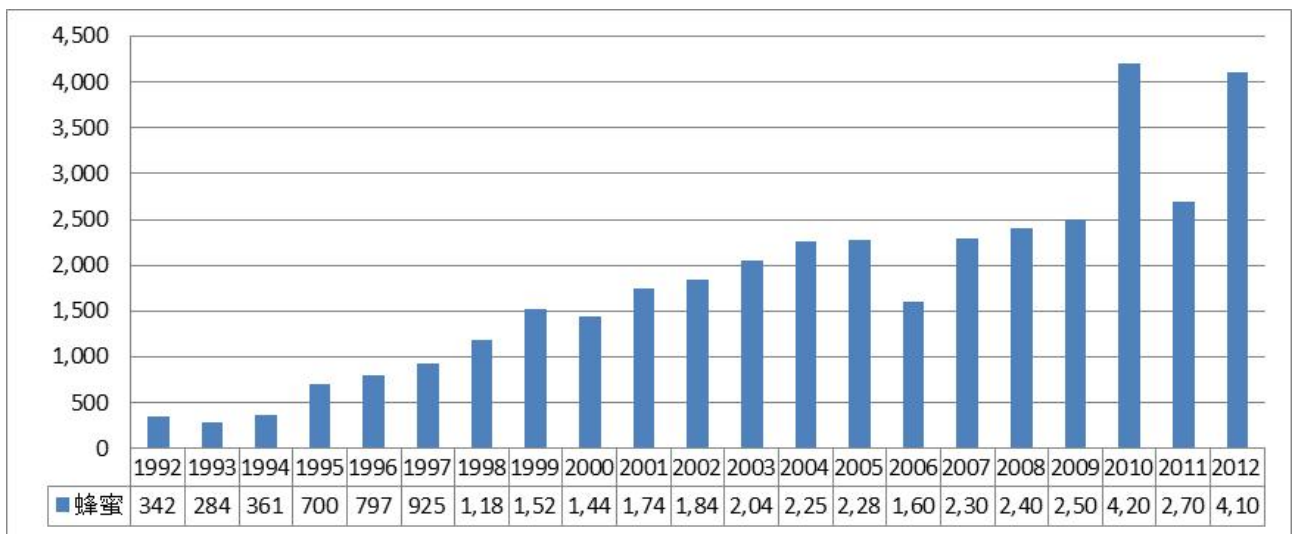
馬肉の生産量の推移(トン)



鶏卵の生産量の推移(百万個)



牛乳の生産量の推移(千トン)



蜂蜜の生産量の推移(トン)

※以上8点、出所：FAOSTAT

2. 農林水産関係国家政策

(1) グルジアの農業発展戦略 (2014-2020)

グルジアではソ連の崩壊により茶や果物といったこれまでの共和国ごとに専門化された生産体制が崩壊し、穀物、ジャガイモ、野菜など自給を目的とした生産へとシフトした。しかし同時にこれは農業の輸出における潜在力を大きく引き下げることとなった。

そのため、グルジア政府は、2006年より農業の潜在力を向上させ、農作物の品質、競合性を高めることを目的に、世界銀行と共同で、総額3,470万米ドルにのぼるプロジェクトを開始した。

このプロジェクトは食品の安全性の保障、農業部門の輸出の潜在力の向上、市場でのグルジアの存在感の確立も目指し、土地改良にも注力している。2009年までにさらに5,000万米ドルが支出される予定であり、それにより散水設備を備えた耕地は30万haとなる予定である。

「2014-2020年におけるグルジアの農業発展戦略」の公表がトビリシのシェラトン・メテヒ・パラスで行われた。グルジア農業省副大臣イリヤ・クヴィタイシヴィリは、政府、議会、外交団、非政府組織および国際組織の代表団に対しこの文書を発表した。

本戦略は以下の7つの主要方針を網羅している。

- ・農業部門において農場および労働者の競争力を向上させること
- ・付加価値を生み出すためのサイクルを持った生産の発展を促すこと
- ・教育・研究機関、研修の発展
- ・地域の農業インフラの発展
- ・食品の安全性
- ・食品の無毒性
- ・環境および生物学的多様性

これらの戦略的に重要な対策の実現は、グルジア農業の発展を速め、生産性、生産の成長、グルジア製品の輸出市場での拡大を促すものである。

「2014-2020年におけるグルジアの農業発展戦略」案は、農業関連省庁と国際連合食糧農業機関(FAO)の協力により作成された。

グルジア農業省とFAOは、2013年7月に、グルジアの農業分野の発展のための協定を作成した。

「2013-2015年におけるグルジアのプログラム包括文書」(CPF)は、前農業省大臣シャルヴァ・ピピヤとFAOグルジア代表トニ・アロンゾによって署名された。

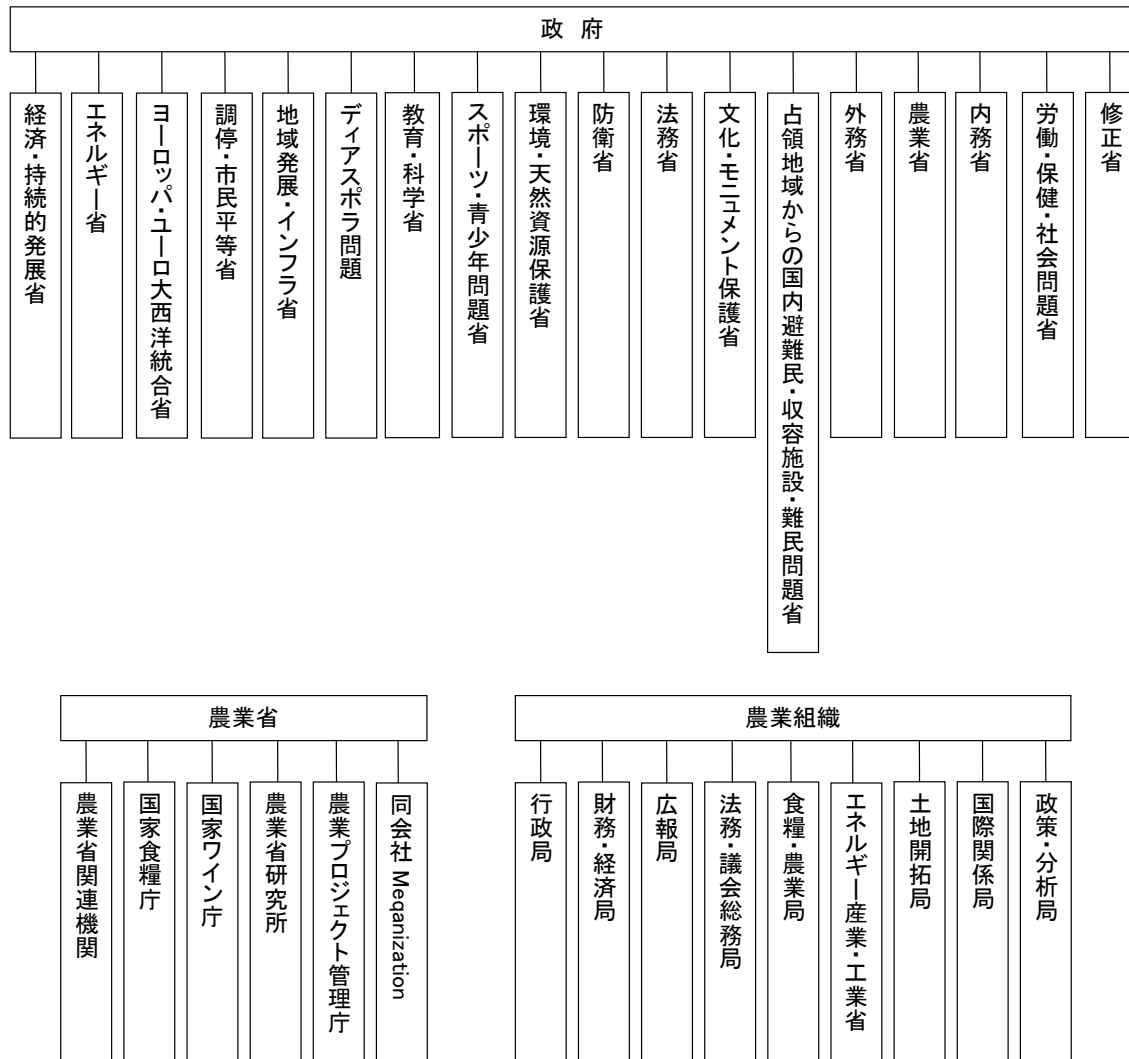
当該文書によれば、FAOは、「2014-2020年におけるグルジアの農業発展戦略」、「2013-2015年の活動の戦略的プラン」およびその他の文書に反映された課題を実現するようグルジア政府を促す義務を引き受けた。

関係者間の協力は、以下の6つの優先的方針に関し行われる。

- ・政策作成の援助
- ・収入源の増加および紛争後の環境における住民の食品安全性
- ・動物の健康
- ・植物の保護
- ・食品の安全性および消費者保護
- ・森林部門および漁業

※参考：NEWSGEORGIA(<http://newsgeorgia.ru/economy/20140722/216803258.html>)

3. 農林水産関係政府機関・団体



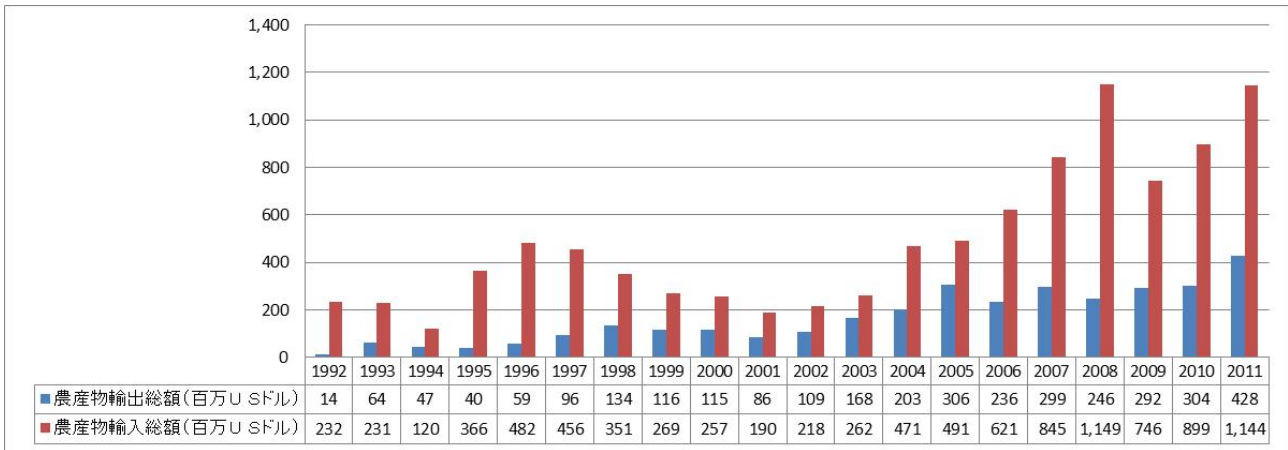
出所：グルジア政府、グルジア農業省 HP

4. 農林水産貿易の概況

(1) 貿易状況

グルジアの貿易状況は収支バランスが大きく赤字である。特に 2007 年以降、一貫して輸入量が輸出量を数倍上回っている。とりわけ加工食品の輸入に大きく依存しており、それは輸入全体の 12.1%である。

2012 年の農業部門の貿易収支は 7 億 6,200 万米ドルの赤字である。



出所：FAOSTAT

農産物輸出入総額の推移(百万米ドル)

(2) 輸出

2011 年の輸出品目はナッツが 1 億 2,300 万米ドル、ワインが 5,400 万米ドル、小麦が 600 万米ドルである。輸出相手国は 2010 年時点ではウクライナが全体の 36%、アゼルバイジャンが 20%とこの 2 国で過半数を占め、以下、ドイツ 9%、アルメニア 7%、カザフスタン 7%と続く。このことから西側、とりわけ欧州の市場における存在感が薄いことは明らかである。

輸出農産物上位 5 品目(2011 年)

品目名	輸出額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
殻付きヘーゼルナッツ	123	28.9
蒸留酒	68	15.9
ワイン	54	12.6
ミネラルウォーター	48	11.1
ノンアルコール飲料	15	3.5
上位5品目計	308	72.0
上記以外農産物計	120	28.0
農産物総額	428	100.0

出所：FAOSTAT

(3) 輸入

2011年の輸入を見ると、小麦が1億8,400万米ドル、タバコが8,600万米ドル、鶏肉6,600万米ドルと、生活必需品の多くを輸入に依存している傾向がわかる。2010年の輸入相手国ではウクライナが32%、ロシアが19%、トルコが11%、ブラジルが11%となっている。輸出では上位に含まれておらず、また政治的にも良好な関係でないロシアが輸入部門では大きな割合を占めていることから、グルジアの食品輸入の緊急性がうかがえる。

輸入農産物上位5品目(2011年)

品目名	輸入額 (百万米ドル)	農産物総額に 占める割合 (%)
小麦	184	16.1
紙巻タバコ	86	7.6
鶏肉	66	5.8
ひまわり油	65	5.7
粗糖	64	5.6
上位5品目計	465	40.7
上記以外農産物計	678	59.3
農産物総額	1,144	100.0

出所：FAOSTAT

5. 農業投資状況

(1) 農業投資概況

グルジアは法保護、税制、労働環境などによって外国投資を積極的に誘致している。原則として全ての部門が外国投資に開かれており、外国資本により4,600のビジネスが行われている。2009年から2010年において直接外国投資が行われた主要5部門は、輸送、通信、工業、不動産、金融部門である。2005年から2010年における投資主要5カ国は、英国、アラブ首長国連邦、トルコ、米国、オランダである。

政府による全投資に占める部門別の割合の推移(%)

部門	2000	2003
工業	14.6	6.3
農業・狩猟・林業	0.4	0.04
建設	1.2	14.8
輸送・通信	41.5	65.8
商業(自動車修理、日用品等)	5.7	3.8
その他	36.6	9.3

出所：CIS統計委員会

(2) 他ドナーによる支援

2015年に欧州連合は、農業、農村の発達のための支援を行うことを表明。グルジア政府との共同プロジェクトとなる。それ以外にも米国国際開発庁 (USAID) は「グルジア農業における生産効率の再興について」(REAL)の実現を予定している。これは5年間にわたり、奨励金提供、技術協力などの形で1,950万米ドルを提供するものである。120のカテゴリーの奨励金の交付を予定している。

1) 国際連合食糧農業機関 FAO

戦略目標別プロジェクト

グルジアの企業のために FAO 資金により進行中のプロジェクト(2014年1月1日現在)

技術協力プログラム(TCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
TCP/GEO/3402	魚および水産物に対する国際市場の要件を満たすための国家食糧庁の強化	2013-2015	415,000	411,770

FAO 信託ファンドと国家の共同プログラム(TF/GCP)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
GCP/GEO/001/EC	農業および農村発展のためのヨーロッパ近隣プロジェクト (ENPARD)・グルジアプロジェクト MoAのための能力構築/支援	2013-2016	2,554,037	2,511,688
GCP/GEO/003/AUS	グルジアにおける国家種子生産システム再建プログラム	2013-2015	195,000	195,000
GCP/GEO/004/AUT	グルジア農業省の能力開発; 農業発展戦略の戦略決定の改善および効果的实施 (ENPART グルジアプログラムへの寄与)	2014-2015	1,589,404	1,589,404
GCP/GLO/275/EC	食糧安全保障に関する意思決定改善のための情報システムに対する EC/FAO プログラム FOOD2009/223-068	2009-2013	4,171,213	143,770
GCP/RER/040/EC	旧ソ連における危険な化学物質を含むために廃止された未使用の農薬の再使用の防止能力の改善	2012-2015	8,000,001	5,252,688

その他の信託ファンド(TF)

記号	名称	期間	予算総額 (米ドル)	2014/1/1 現在 使用可能額
GCP/INT/062/GFF	東ヨーロッパ、コーカサス、中央アジア諸国における廃棄農薬と残留性有機汚染物質含有農薬の管理能力の構築(FSP)	2009-2012	1,000,000	0
OSRO/GEO/101/EC	グルジアの国内難民および強制帰国者集落における費用分担農業投資による持続的生活の実現のための支援	2012-2015	2,860,000	1,870,846

プロジェクト名	灌漑および土地市場開発プロジェクト
プロジェクト ID	P133828
国	グルジア
地域	ヨーロッパおよび中央アジア
認可	2014年5月23日
完了	2019年7月31日
プロジェクト総額	5,000万米ドル
拠出額	5,000万米ドル
概要	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択された地域における灌漑・排水サービス提供の改善 ・ 国家土地登記プログラムの基礎として改善した政策および手順の整備